



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2005

8月20日号

92
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://www.yo.rim.or.jp/fart> メールアドレス fart@yo.rim.or.jp

生涯教育はどうなっていくの



副会長 鈴木 憲 二

今年の5月の福島県放射線技師会総会において副会長を引き受けることになり片倉会長の補佐をすることになりました。今年の2月号の福島放技ニュースで福島県の研修会について会長が述べているように、極力会員の負担を少なくするようにメーカーとの共催で行っており、講演会の内容等は放射線技師主体の企画であり生涯教育カリキュラムを満たすものと思っているが、日本放射線技師会から見るとメーカーとの共催は生涯学習カウントが認めていないのが実状である。昨年度の放射線機器管理士、放射線管理士の認定講習会は福島県単独共催ができる受講人員があり受講料も一昨年の宮城県との共催と比較して半分以下の受講料で開催することが出来た。これが日本放射線技師会主催での講習会になると多額の金額になるのを不思議に思っているのは私だけなのであろうか。最初のベーシックカード取得に3,000円が必要となり福島県放射線技師会では、カード取得を見合わせるように広報いたしました。会員証はベーシックカードであり無料で交付するのが当然であり、会費を徴収していながらまだ徴収するのかと怒りさえ覚えた。今年の10月より福島県でもアドバンスセミナーが開催されますが、日本放射線技師会教育センターで開催される受講料が福島県の3倍強となっており、本部役員の儲け主義と取られても仕方のないことであり、放射線機器管理士、放射線管理士の認定講習テキストの著作権侵害で損益を技師会会員に与えたことは本部役員の失態である(福島県放射線技師会ホームページに医療科学社のコメント掲載)。今後の放射線機器管理士、放射線管理士の認定講習会は在宅学習スタイルに変えることが検討されており、受講日数が6-8日と勤務が多忙な方や地理的に講習会場へ行くことが困難な方のためにも、アドバンスセミナーを含むすべての講習会も在宅学習システムに変更すべきである。数年前よりアドバンスド、シニア、マスターの技師格認定制度を設置し、その技師格維持のためにカウントを取得しなければならず、カウントも本部主催と地域主催では3倍の格差があり、論文も日本放射線技師会雑誌に掲載されると100%認められるが、日本放射線技術学会雑誌掲載は40%しか認めてもらえないのが現実であり、どちらの学会も会員は放射線技師であり、論文に差が有るとも思えず不公平感が募るばかりである。福島県でも今年度より生涯教育委員会を立ち上げ、長期的に生涯学習に対応できる体制を整えました。これからの生涯学習とは地域住民に寄与できる医療水準を保つための学習であり、お仕着せの講習会ではないはずである。そのためにも福島県放射線技師会主催の各種研修会に参加され放射線技術の向上に努めていただきたい。

合同委員会開催される

■福島県放射線技師会の各種委員会の合同委員会が平成17年7月1日に福島医大で開催された。

参加した委員会は、総務企画、精度管理、調査、学術、編集広報、ネットワーク、生涯教育、表彰の各委員会で、最初に全体会議、次に各委員会に分かれて年度計画や達成目標の討議、最後に全体会議で各委員会の代表者より討議内容が報告された。

全体会議では片倉会長より、平成17、18年と2年にわたる任期なのでご苦労をお掛けしますが、会と会員のためご協力をお願いしたいとの挨拶があり、その後臨床講義室や中央放射線部など数カ所に分かれて委員会を持ち、熱心な討議がなされたが年度の基本方針を決めるだけになかなか結論が出ず、全体会議に間に合わない委員会もあるほどだった。

代表者の報告では、決意も新たに年度の基本方針の発表がなされた。

(八巻)



平成17・18年度委員会名簿

総務企画委員会

会長	片倉 俊彦	支部長	本田 規
副会長	齋藤 康雄	支部長	吉田 豊
副会長	鈴木 憲二	支部長	秦 昭吉
支部長	齋藤 重夫	事務局長	伊藤 陸郎

精度管理委員会

吉田 豊	白河厚生総合病院
本田 規	磐城共立病院
齋藤 重夫	福島県保健衛生協会
松井 大樹	北福島総合医療センター
古川 徹	研記念病院
佐久間守雄	星総合病院
菅野 修一	都路村診療所
奈良坂真弘	会津中央病院
遠山 和幸	県立会津総合病院
栗田 祐治	公立相馬総合病院
山崎 武	福島労災病院

調査委員会

富塚 光夫	太田総合西ノ内病院
長川 正良	渡辺病院
森口 節男	公立藤田総合病院
富原 弘之	福島赤十字総合病院
太田 隆行	社会保険二本松病院
渡辺 和夫	太田総合熱海病院
山口 大	寿泉堂総合病院
松枝 直宏	竹田総合病院
吉川賢津枝	有隣病院
中原 直人	渡辺病院
田村 実	松村総合病院

学術委員会

新里 昌一	太田総合西ノ内病院
白川 義廣	竹田総合病院
佐藤 孝則	県立医大附属病院
佐藤 佳晴	公立藤田総合病院
小島 正徳	総合南東北病院
幕田 節男	塙厚生病院
山田 隆弘	会津中央病院
足利 広行	竹田総合病院
佐藤 龍一	市立常磐病院
三浦 智弘	福島労災病院

編集・広報委員会

八巻 昭一	磐城共立病院
秦 昭吉	県立会津総合病院
今野英麻呂	福島赤十字総合病院
佐藤 靖芳	大原総合健康クリニック
池田 正光	県立医大附属病院
車田 清春	公立岩瀬病院
北島 潔	白河厚生総合病院
山下 朋廣	竹田総合病院
森谷 長裕	会津中央病院
嶋田 峻二	原町市立病院
大森 修	呉羽総合病院

ネットワーク委員会

飯野 克郎	総合南東北病院
遊佐 雅徳	県立医大附属病院
福田 和也	公立岩瀬病院
熊田 真幸	坪井病院
鈴木 雅博	竹田総合病院
村上 薫	小野田病院
古川 義一	かしま病院

生涯教育委員会

飯野 克郎	総合南東北病院
齋藤 康雄	坪井病院
佐藤 孝則	県立医大附属病院
佐藤 政春	星総合病院
山下 朋廣	竹田総合病院
堀江 常満	雲雀ヶ丘病院

福島マンモグラフィー講習会開催される

■去る平成17年7月9日・10日の2日間にわたり、「福島マンモグラフィー講習会」が福島市医師会、NPO法人マンモグラフィー検診精度管理中央委員会共催で、福島県立医科大学附属病院において開催されました。県内各施設より多数応募の中、49名が受講し、乳癌の臨床画像評価、品質管理やポジショニング等について講習を受けた。読影・筆記試験の後、片倉会長より終了証書の授与があり、参加者への労いと今後の活躍を期待する激励の話があった。参加会員の皆様、及び講習会に携わって下さった指導員の方々、大変にご苦労様でした。

尚、本年10月にも福島医大において放射線技術学会東北北部会主催のマンモグラフィー講習会が開催される予定となっております。(池田)



平成17年度人事異動(17.8.1現在)

新入会

熊田 良二	高田厚生病院
永山 誉人	社会保険二本松病院
比佐佳奈子	大原医療センター
渡辺 理沙	太田総合西ノ内病院
関根 康孝	〃
佐藤 修一	〃
上竹 俊介	せのうえクリニック
山口さつき	会津中央病院
梅津 修	太田総合熱海病院
高橋 良輔	大河内記念病院
星 大地	済生会福島総合病院
米沢 由紀	白河厚生総合病院
金澤 孝彦	〃
海藤 隆紀	総合福島赤十字病院
国島やよい	〃
新井田哲也	岩瀬病院
野地 智美	わたり病院
石井 裕	福島労災病院

異動

遠藤林次郎	保健衛生協会
三浦 正男	〃
上石 信一	〃
八代 功士	相双地区センター
亀山 欣之	県南地区センター
半沢 俊和	会津地区センター
菊地 正勝	医大附属病院
大坊 元二	奥羽大附属病院
松本 泉	塙厚生総合病院
佐藤 秀樹	鹿島厚生病院
我妻 真一	白河厚生総合病院
新村 一成	〃
荒井 孝嗣	農村健診センター
鈴木 成浩	しのぶ病院
後藤 紀子	南会津病院
小山 英明	会津総合病院
小林 寿郎	大野病院
田仲 邦夫	いわき保健所
今野 広一	磐城共立病院
荒井美奈子	山鹿クリニック
坂本 弘道	会津総合病院
白岩 修二	インターベンションクリニック

旧

保健衛生協会
〃
〃
相双地区センター
県南地区センター
会津地区センター
医大附属病院
奥羽大附属病院
塙厚生総合病院
鹿島厚生病院
白河厚生総合病院
〃
農村健診センター
しのぶ病院
南会津病院
会津総合病院
大野病院
いわき保健所
磐城共立病院
山鹿クリニック
会津総合病院
インターベンションクリニック

新

同県南センター
同相双地区センター
同会津地区センター
保健衛生協会
〃
〃
県南地区センター
〃
坂下厚生総合病院
白河厚生総合病院
塙厚生総合病院
農村健診センター
白河厚生総合病院
成瀬病院
会津総合病院
南会津病院
会津総合病院
磐城共立病院
いわき保健所
竹田総合病院
磐梯町瑠璃の里
会津中央病院

退職

星 健介	太田西ノ内病院
小林 浩毅	医大附属病院
鈴木 忠	小野田病院
山口さつき	会津中央病院

転入

小野寺義晴	宮城県	国立いわき病院
-------	-----	---------

転出

米沢 由紀	白河厚生総合病院	栃木県
佐川 良	福島労災病院	神奈川県
鈴木 竜司	大原総合病院	〃
津野 允彦	寿泉堂病院	埼玉県
八重樫文勝	有隣病院	宮城県

退会

星野 一夫、	宮森 通雄、	木崎 盛義
仲田 武、	春日 千佳、	伊藤 正己

第15回 ACRT.放射線技師総合学術大会

会 期：平成17年11月19日～23日

会 場：幕張メッセ国際会議場ほか

参加申込み：ネットワークナウ等参照
各自申し込みください。

支部便り

会津支部

会津MRI画像研究会開催される

■平成17年6月24日(金) 会津中央病院において、会津MRI画像研究会が開催された。

今回は、会津中央病院が6月24日から新しく「放射線棟」が稼動することになり、御披露目を兼ねた見学会が行なわれた。お目当ては、東北地方で初めて導入されたGE社製のMRI[Signa EXCITE]を装備したFUS(収束超音波治療装置)ExAblate2000を見学するために、会員の工藤技師より説明を受けた。それによると目的腫瘍の同定と治療効果をMRIでモニタリングしながら治療を進める、治療完了まで4時間を要するとのこと。また新しく導入されたシーメンス社製MRI[MAGNETOM Symphony Syngo MR]の8chコイルを使った画像を見ながら、さまざまな意見が交わされ、各施設から持ち寄ったMRI画像との比較や撮影の苦労話など、多くの情報交換が交わされた。今回、白河厚生病院から3名の会員の参加や、竹田総合病院の放射線科医の参加もあり大盛況のMRI画像研究会であった。(森谷)

県北支部

福島県医用デジタル通信研究会の開催

■第8回福島県医用デジタル通信技術研究会の講演会が8月20日(土)に杉妻会館で開催されます。また研究会終了後には、県北支部暑気払いを企画しております。多数の参加をお待ちしております。

日時：8月20日(土) 午後3時30分より

場所：杉妻会館 3F「百合の間」

プログラム

1. 「造影検査とリスクマネジメント」

日本シェーリング㈱ 長嶺雅明

2. 「院内LANに使用されている機材とその特徴」

東芝メディカルシステムズ㈱ 中山 仁

3. 「最新の院内LAN構築のために」

東芝情報機器㈱東北サポート部 内海 誠

県北支部暑気払い 午後5時半～ 杉妻会館

会費 2,000円

県南支部

サマーセミナー開催

■平成17年7月30日(土) 福島県放射線技師会県南支部サマーセミナーが午後3時より郡山市駅前ビッグアイ市民

プラザで開催されました。参加者は35名で技術講演として、ダイナCTについて、シーメンス旭メディック松井美鈴氏、教育講演として、改正薬事法について、富士フィルムメディカル野口雄司氏より講演を頂いた。改正によって、「機器装置のメンテ記録がないとその病院は、機器の保守点検をしていないと見なされる」と言われ事務側への説得材料が増えたと思いました。その後ひどい夕立の中場所を移し、中華料理を楽しみながら講師への質問や会員の親睦と酔いを深めていきました。(北島)



浜通り支部

いわき地区マンモグラフィ読影会の中間報告

■平成17年7月28日(木) 午後6時から定例のいわき市マンモグラフィ読影会が開かれました。この日のマンモグラフィ読影件数は28件で、通常は50～60件ありますが去年のピーク時が100件を超えていたことを考えると状況もだいぶ落ち着いてきたようです。医師会・技師会の合同発足した読影会で画質もポジショニングも、参加施設間の差が少なくなってきたように感じます。読影会に技師が参加していることの効果があると考えても良いと考えます。本日の参加した技師数は6名。技師は読影会の始まる前に写真のポジショニング・濃度その他の品質チェックをして読影会に望みます。いわき市内の技師のいる乳がん検診参加施設(共立、常磐、労災、松村、かしま、社会保険、須田医院、幸島、呉羽)中からローテーションで2名が読影会の参加となります。このような形で進められてきたいわき地区マンモグラフィ読影会もいよいよ今後のマンモグラフィ技術の向上に真価を発揮していきそうです。

(呉羽 小澤)

編集後記

いよいよ夏本番！健康第一！夏風邪、食中毒、冷房病に注意しましょう。8月も各支部ともに勉強会等が盛んに企画されております。皆さん、積極的に参加し自身のスキルアップを図っていきましょう。そしてビールでも飲みながら他施設の人たちとの懇親も深めてみませんか。(池田)